

## 産婦人科 初期研修プログラム

### 必ず習得するアウトカム

1. 基本的な医療面接を身につけ、産婦人科に特有な月経歴、妊娠歴などの事項を適切に聴取できる。
2. 患者の不安・苦痛・羞恥心等に配慮し、産婦人科特有の身体診察ができる。
3. 産婦人科疾患を理解し、産婦人科救急疾患に対し初期対応、検査計画がたてられる。

### 研修目的

産婦人科では、さまざまな生理的・精神的背景をもった婦人科疾患の特有な病態を把握すること。また妊娠偶発合併症の妊娠が合併症のおよぼす影響、ならびに合併症が妊娠におよぼす影響を理解すること。これらのことは将来、産婦人科以外を専門とする多くの初期研修医の皆さんの役に立つものと考えられる。

また、初期臨床研修終了後に産婦人科専門医を希望するものにとっても、当科における研修が基盤となり、高い倫理性とともに広い知識、優れた技能とを備えた産婦人科専門医となることを念頭においた研修を行う。

### 研修目標

#### ◇ 一般目標

1. 社会人として、医師として基本的礼儀を身につけ良識ある行動をおこなう。
2. プライバシーや心理状況に配慮し、患者や家族と良好な人間関係を確立することができる。
3. 常に安全な医療を心がけ、医療事故防止や院内感染対策に積極的に取り組むことができる。
4. 医療チームの一員としての自身の役割を理解し、チームとして患者に対処し、上級医に報告することができる。

#### ◇ 行動目標

1. 女性の正常性周期や解剖、正常妊娠・正常分娩、産褥の経過を理解する。
2. 急性腹症や性器出血など産婦人科救急疾患を鑑別診断し、初期対応できる。
3. 子宮筋腫や卵巣腫瘍など産婦人科の一般疾患の診療に参画し、その症状や病態を理解する。

#### ◇ 研修期間中に経験可能な疾患・疾病、および手技

1. 子宮筋腫、卵巣腫瘍など婦人科良性腫瘍
2. 子宮癌、卵巣癌など婦人科悪性疾患
3. 腹痛、急性腹症、不正性器出血
4. 正常妊娠・正常分娩
5. 流早産

6. 内診・双合診（5例程度）
7. 超音波断層法（経膣・経腹走査法）（10例程度）
8. 切開・縫合術（20例程度）
9. 正常分娩、会陰切開・縫合に助手として参加（10例程度）
10. 帝王切開に助手として参加（3例程度）
11. 婦人科良性腫瘍手術に助手として参加（15例程度）
12. 婦人科悪性腫瘍手術に助手として参加（5例程度）

### 研修方略

1. 外来・入院診療により妊娠・分娩・産褥症例に接し、その正常な経過や異常な状況、その診断・治療を理解する。
2. 産婦人科専門医の指導のもとに 5-10 例程度の入院症例を担当し、カンファレンスでは症例提示をおこなう。
3. 指導医のもとに産婦人科手術に参画し、外科的基本手技を身につけるとともに、術後管理を行う。
4. 産婦人科の救急外来担当として、指導のもとに昼間救急患者に対応し、初期対応を習得する。

### 研修評価

自己評価および指導医による評価を行う。なお、指導医が評価を行うために、コメディカル・スタッフや患者に意見を聞くことがある。

評価は「観察記録」、すなわち研修医の日頃の言動を評価者が観察し、要点を記録しておく方法により行い、特に試験などは行わない。

### 週間予定表

	午前	午後
月	外来・病棟診療	病棟診療
火	外来・病棟診療	カンファレンス
水	手術	手術
木	外来・病棟診療	病棟診療
金	外来・病棟診療	手術

（緊急診療、緊急手術、分娩などには随時立ち会う。）

## 指導責任者および指導医

指導責任者： 渡部 洋

- 日本産科婦人科学会 産婦人科専門医・指導医
- 日本婦人科腫瘍学会 婦人科腫瘍専門医・指導医
- 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
- 日本癌治療学会 臨床試験登録医
- 日本臨床細胞学会 細胞診専門医・指導医

指導医： 酒井 啓治

- 日本産科婦人科学会 産婦人科専門医・指導医
- 日本周産期新生児学会 母体胎児専門医・指導医
- 日本内分泌学会 内分泌代謝専門医
- 厚生労働省「指導医講習会」 臨床研修指導医

中西 透

- 日本産科婦人科学会 産婦人科専門医・指導医
- 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
- 厚生労働省「指導医講習会」 臨床研修指導医
- 母体保護法指定医師

松澤 由記子

- 日本産科婦人科学会 産婦人科専門医・指導医
- 日本生殖医学会 生殖医療専門医
- 日本女性医学学会女性ヘルスケア専門医
- 日本周産期新生児学会 母体胎児専門医
- 日本産科婦人科遺伝診療学会認定
- 厚生労働省「指導医講習会」 臨床研修指導医

## 学生（4～6年生）や他科研修中研修医のカンファレンスの参加の可否

参加可 ・ ~~参加不可~~

## 研修医発表会、学会発表に対する指導体制

産婦人科での研修内容を研修医発表会で行うことは全く問題ない。

希望者には、日本産科婦人科学会が主催する学術講演会及びサマースクールへの無料参加が可能である。

## 同時期に受け入れ可能研修医数（1クール：1～3ヶ月）

1-2名/1クール-

## 産婦人科経験目標達成度ならびに自己評価

	項目	評価	目標症例数	経験症例数
＜臨床検査＞				
1	超音波断層法			
	1.経膈超音波検査			
	2.経腹超音波検査			
	3.胎児超音波検査			
2	胎児心拍モニタリング			
3	コルポスコープ検査			
4	ヒステロスコープ検査			
5	子宮卵管造影検査			
＜手技・手術＞				
1	正常分娩			
2	帝王切開術			
3	流産手術			
4	羊水穿刺			
5	婦人科開腹手術			
6	婦人科腹腔鏡手術			
7	人工授精			
8	体外受精			
＜頻度の高い症状＞				
1	腹痛			
2	性器出血			
3	月経困難			
4	月経不順			
5	帯下増加			
6	貧血			
＜緊急を要する症状・病態＞				
1	急性腹症			
	1.異所性妊娠			
	2.卵巣腫瘍茎捻転・破裂			
2	胎児機能不全			
＜代表的疾患・病態＞				
1	切迫早産・切迫流産			
2	妊娠高血圧症			
3	産科出血			
4	合併症妊娠			